

大問 番号	配点	単元	出典	難易度	問題文 文字数 ※()は前年差	全体 文字数 ※()は前年差	目安 時間 (分)	特徴	2025年度 本試験 平均得点率	2024年度 本試験 平均得点率	2023年度 本試験 平均得点率
全体	200	－	－	標準	約10,400字	約24,800字	90	・評論・小説・古文・漢文に加え、第3問として「言語活動に関する大問」が新たに追加され、全5題の出題となった ・全体として選択肢の数が減らされ、若干の負担減とはなったが、正解を選ぶために要する時間は必ずしも短縮されたとは言えず、時間との戦いという側面は変わっていない ・評論・小説は単独の文章を用いた出題に戻り、文章の内容自体を的確に読み取る力を問う、読解力重視の出題と言えるだろう ・古文・漢文は複数文章を関連付けて読解する出題で、極端な難問は見当たらず標準的な出題だった	63.34%	58.25%	52.87%
第1問	45	評論	高岡文章「観光は『見る』ことである／ない—『観光のまなざし』をめぐって」	標準	約3,800字 (－560)	約7,800字 (－600)	20	・単独の問題文の出題 ・選択肢はすべて四択 ・すべて傍線部の内容読解に関わる設問 ・マーク数は2つ減少	66.74%	59.95%	62.20%
第2問	45	小説	蜂飼耳「繭の遊戯」	標準	約4,300字 (+1,220)	約7,900字 (－280)	20	・単独の問題文の出題 ・問題文以外の資料の出題はなし ・語句の意味を問う設問はなく、傍線部などの内容読解に関わる設問(6問)と本文の表現に関する設問(1問) ・選択肢はすべて四択 ・マーク数は3つ減少	73.47%	69.91%	62.23%
第3問	20	言語活動	【資料Ⅰ】 国立国語研究所『外来語に関する意識調査(全国調査)』 【資料Ⅱ】 国立国語研究所「外来語」委員会編『分かりやすく伝える外来語言い換え手引き』 【資料Ⅲ】 NHK放送文化研究所『放送研究と調査』2022年12月号	標準	文章:660字 資料Ⅰ:グラフ 資料Ⅱ:400字 資料Ⅲ:図、メモ	約3,400字 (－)	13	・試作問題の第8問に近い出題 ・「表現の修正・加筆」など言語活動を意識した出題が中心 ・問2は「表現の修正」という設定にはなっているが傍線部説明問題に近い ・問3(i)は図4のグラフの読み取り問題。グラフを読み取るのが若干煩雑	66.01%	－	－
第4問	45	古文	文章Ⅰ:『在明の別』 文章Ⅱ:『源氏物語』若菜下	標準	文章Ⅰ:634字 文章Ⅱ:426字 (－87)	約3,800字 (－700)	19	・会話文形式を踏まえた複数文章の内容把握問題の構成。 ・文法単独問題が復活(ただし、敬語の説明で文脈判断は必要) ・文章Ⅰの読解が主眼(文章Ⅱの内容を直接問われたのは1問のみ) ・選択肢は文法問題を除いて四択	57.42%	49.13%	43.73%
第5問	45	漢文	文章Ⅰ:『論語』の一節 皆川淇園『論語釋解』 文章Ⅱ:田中履堂『学資談』	やや易	文章Ⅰ:107字 文章Ⅱ:92字 (－11)	約1,900字 (－900)	18	・二つの文章の組み合わせ問題(日本漢文からの出題) ・標準的な出題と難易度だが、問5のみ珍しい形式(「又」「亦」の用法) ・選択肢はすべて四択	54.51%	54.00%	43.31%